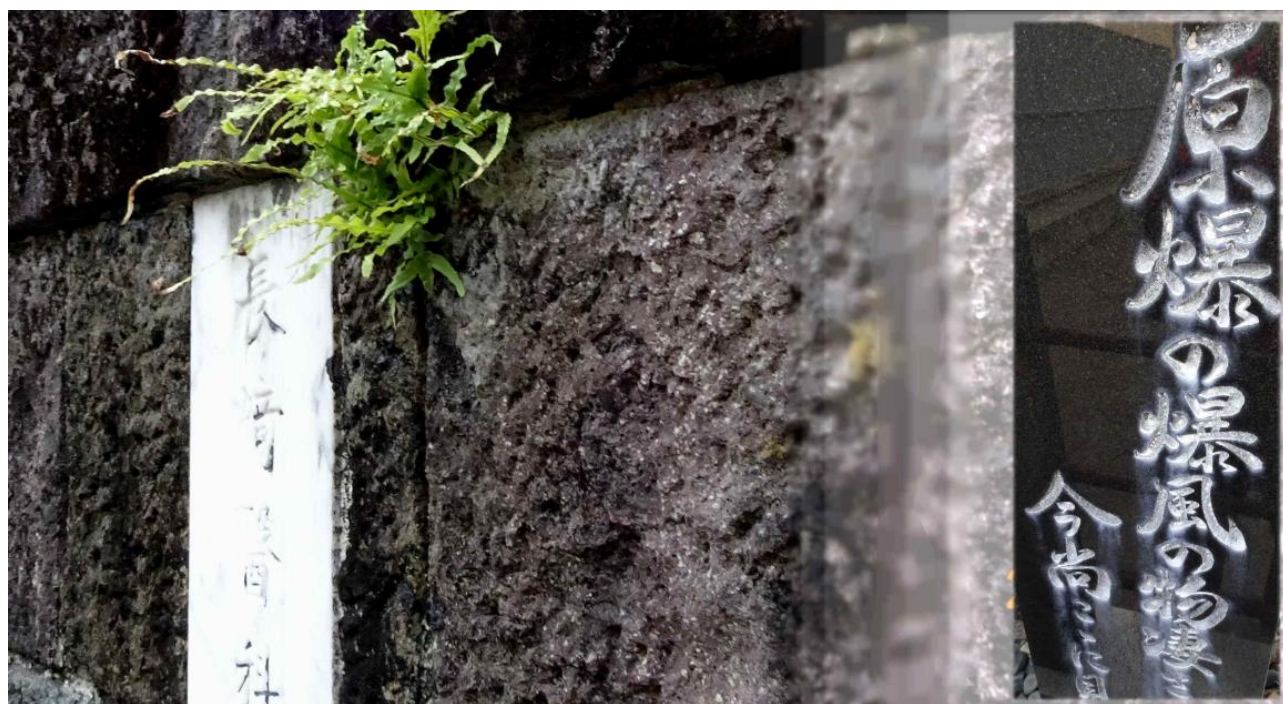


月刊 JMITU せがごころ



写真は原爆を受けた長崎医科大学止門門柱です。一九四五年八月九日の学生達は夏休みを返上して講義を受けている最中に原爆が投下され、机に着席したままの姿で炭化した遺体もあつたそうです。

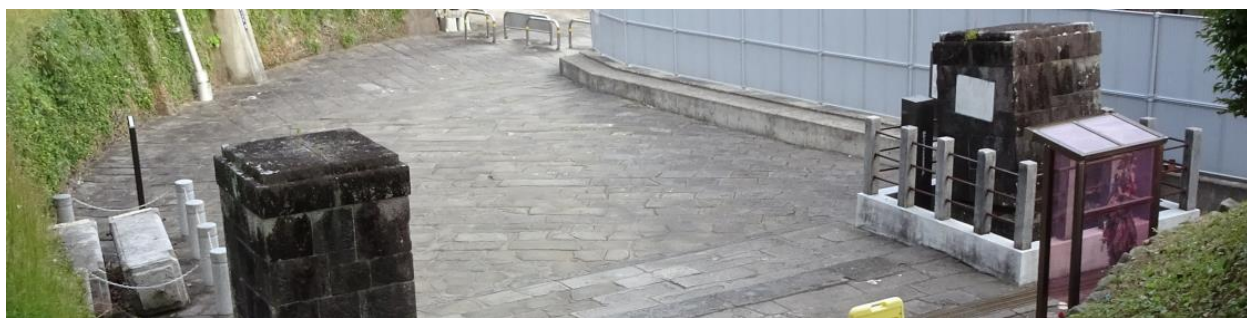
昨年二月にロシアのウクライナ侵攻が始まりロケット弾が住宅に着弾し、民間人の死傷者が出ていると報道されました。

今年の十月七日にハマスのテロ襲撃事件で、多数の拉致・死傷者が出ました。

イスラエルはハマスが実効支配するパレスチナのガザ地区へ、報復と人質救出と称して空爆を行い、多くの民間人の死傷者が出ていると報じられました。

どのニュース映像を見ても心が痛むばかりです……

いったいどれだけの死傷者を出せば気が済むのだ。



11月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガグループ分会 2023年発行

No.467

23年秋闘 年末一時金回答

SLS 会社回答

10月18日、23年秋闘・年末一時金要求に対する会社の回答がありました。

セガ 会社回答

会社「先日決算発表がありました。グループ全体ではサミーがいいので助けられている部分がある。セガのヨーロッパ・アジアの件、今期は想定を下回る販売売り上げ状況、いろんな段階で売り上げが減っている。セガはそれでも赤字ではないですが、なかなか今季の目標に向けて、これから出てくる国内のタイトルがうまくいかなくは計画達成

が難しい、このような状況で

冬の賞与で上げるといいう事は厳しい。今年報酬改定があつて、賞与の一部分は月額の給料に織り交ざっている。」

会社の回答としては

年末一時金 2か月分

組合「AM事業については今後どうなっていくのか。」

会社「AMが赤字とか言うところ考えるのでしようけど、中期計画来季から新しい中期計画を策定中だが、今3年目です右肩上がりの成長を目指すビジネスの位置づけではないが

まだまだ利益を出せるビジネスという認識です。

ただ戦略を変えていかななくてはならない、ニーズに合わせた供給を考えていかななくてはならない。」

組合「日本も非正規について4割ぐらいになっていますが、正社員との格差をなくして、前進できる回答が欲しい。」

会社「別に見ていないわけではない。非正規というのは正社員以外のことを言うが、契約社員、アルバイト報酬改定を行った。雇用形態の違いは役割の違い、社員登用の制度も設けている。契約社員、アルバイトは短期で雇うことを考えている。長期で雇うのであれば正社員を前提としている。」

年末一時金回答

係数 2.0

一般正社員平均

703,579円

支給日

12月8日(金)

従業員のエンゲージメント向上及び社員食堂がない事業所勤務者への福利厚生充実のため、食事代を補助する「びずめし」を2024年1月より導入する。外食やコンビニ等で購入したら半額になる。

対象者は

正社員、エリア社員、高年齢再雇用社員

対象の事業所

佐倉・佐倉南総・矢口・東日本・西日本

毎月3850円分のポイントを付与。

掌編小説

不審者

仙洞田一彦

昼下がり、電車に乗った。夏からいきなり冬になったような木枯らし。電車の中は風が来ないし、陽光は目いっぱいなので、ややホツとする。

座席はほぼ埋まっている。立っている人はいない。乗客のほとんどがスマホをのぞき込んでいる風景は、すでに見慣れたもの。スーツ姿の三十代くらいの男性。頭を完全に後ろに倒して目を閉じている。昼寝の様子だが、膝に置いた手にはスマホがしっかりと握られている。

背が丸まっている、かなり年配の女性は、スマホに顔がくつつくほどに近づけて、右

手の指先でちょんちょん突っいている。でも慣れた様子だ。

生まれて間もないような赤ちゃんをベビーカーに乗せた女性は、片手をベビーカーに添えているものの、視線はスマホの画面に向いている。

もう授業が終わったのか学生服姿の少年三人が並んで座り、それぞれ自分の手にあるスマホを見ている。それでいながら、一緒に笑い声を上げたり、「キャッ、キャッ」と視線はそのままに叫び、会話をしている。三人とも、同じ画面を見ているように見える。

すっかり禿げ上がった頭に眼鏡を載せて、スマホをのぞき込んでいる男もいる。難しい表情をし、スマホを指す指が宙に浮いている。画面の内容が難しいのか、操作が難し

いのか。

十代くらいの若い女性は、宝石がちりばめられているようなスマホのケースを持つ。

ぼうつと見ていたが、スマホを持っていないのは私だけのようなのだ。いやもう一人いた。ベビーカーの赤ちゃん。

何十年前のことか覚えていないが、乗客のほとんどが漫画週刊誌を開いている時代があった。電車に乗るには切符のほかにも、漫画週刊誌が必要。そんな感じの時代だった。読み終わった本を、網棚に放り上げたまま、電車を降りてしまうのもいた。自分で買わないで、網棚の上の週刊誌で間に合わせている奴もいた。それを集めて古書店に持ち込んでいるのもいたようだ。

電車がスピードを落とした。

「次の駅で、しばらく停車いたします。お急ぎのところ申し訳ございません。ご協力をお願いいたします」

アナウンスがあった。上を向いて口を開けていびきをかいていた男が、不意に起き、スマホを目の高さに持ち上げた。そして背筋を伸ばし、腰かけなおした。三人の学生も、妙な顔してスマホの画面を見ている。年配の女性も、ベビーカーの女性も、表情から推測すると、何かが「中断」されたという印象だ。年配のごつい体の男は、口をとんがらせて画面を見ている。

電車はゆっくりホームに入った。ドアが開くと、乗客は降りた。一人、一人、……。あれ、みんなこの駅で降りるのか、と不思議な思いで眺めて

いた。私はもつと先の駅まで行く予定だ。用事は仕事や会議ではないので、急ぐ必要はない。また動き出すのを待たばいい。でも車内が私一人になってしまうと不安になった。電車のドアは閉まりそうもない。降りた人たちはホームから、誰かに案内されているように歩きだしたようだ。

車内の少し前の光景を思い浮かべた。一斉にスマホを見ていたようだ。目を覚ました男。学生。若い女。爺さん。婆さん……みんな。

地震予知？ Jアラートってやつか？ ウクライナやガザじゃないから空襲警報ってことはないだろう。

最近とみに衰えを感じる脳が目まぐるしく動く。オーバーヒートしそうだ。みんなが

電車を降りたのだから、私も降りた方がよさそうだ。

おそろおそろ電車を降りる。ホームの真ん中あたりに階段がある。見ると、腰を九十度近く曲げた女性が杖を突き、首から紐で吊るしたスマホをぶらぶらさせながら、一方の手を膝に当てて、階段を上ろうとしている。先に降りたみんなは、その上にいるのだろう。あの女性は一番後ろに違いない。エスカレーターも、エレベーターも止まっている。ということとは重大事故あるいは重大事件発生か。あるいはそれが予想されるのか。こういう時は、みんなの行動に従うのがよい。いやしかし、戦中、防空壕がすでに満員で入れなかつたから、逆に助かったという話も、頭の片

隅にある。爆弾が、その防空壕を直撃したからだ。しかし、まあ、防空壕に滑り込んだ直後、機銃掃射の弾丸が追ってきた。危機一髪、助かったという話もある。この階段を上るかどうかが、命の分かれ目になるかもしれない。

会社人生だってそうだ。この人は出世する人だと思って従って行ったら、もつと強い相手が現れて左遷され、自分も一緒に左遷などという話もある。しかし上に逆らったから助かるという率も、高いとは言えない。うまく立ち回ることだが、あまりにも見え透いていると、それもマイナス評価につながる。

あれこれ考えながら、やはり助かりたい本能が働くのか、足は階段を一步一步上る。

上がりきると、そこは改札口もあり、広くなっていた。みんなそこにいた。そこに加わろうとしたら、呼び止められた。警察官と駅員、合わせて数人いた。

「ちよつとすみません」
言われて立ち止った。すると、肩にかけたカバンを取り上げられ、中を調べられた。別の奴は、私の服のポケットの上を、順番に手で押さえて、上司らしいのに言った。
「スマホ、持っていますか」
カバンを調べた奴も「スマホ、ありません」と、言った。上司らしいのが、私に言った。「こちらに来てください」
私の腕をつかんだ。
別な奴がみんなに言った。「みなさん、ご協力ありがとうございます」